

# くに し せき 國史跡 み の かね やま じょう あと 美濃金山城跡

織田信長・豊臣秀吉の生きた時代  
この城は生まれました



## 美濃金山城のここがスゴイ!!

- 高い石垣
- 建物の跡がわかる柱の土台石
- 建物の屋根に使われた瓦を発見
- 城をつくる時にけずった岩
- 城が壊されたあと



二の丸西面石垣



本丸にみられる礎石



出土したもの

## 烏峰城ができる

古くから交通の要衝であった兼山のまちに、1537年、斎藤大納言妙春(正義)という人が烏峰城という城をつくりました。その時期は斎藤道三が下剋上をした時期で、まわりではたくさんの戦いが起こり、そのためには強力な城を山の上につくったのです。

1548年12月、斎藤大納言妙春(正義)はライバルだった土岐悪五郎に久々利城へ招待されました。食事やお酒がふるまわれ、そこで襲われて亡くなりました。妙春(正義)の墓は兼山淨音寺にあります。



斎藤大納言妙春(正義)画像



斎藤大納言妙春(正義)の墓所

## 美濃金山城へ

森 可成

1565年、織田信長の家臣、森可成が城主となって、烏峰城は金山城と名前を変えました。可成は信長とともに戦い、信頼されました。信長が京都に行った時も一緒に、現在の滋賀県で起こった浅井・朝倉両軍との戦いで討たれてしまいました。



森 長可

森 亂丸

次に城主となったのが、長可という人です。その勇ましさから鬼武藏という名前まで付けられました。長可も信長に信頼され、信長が金山城を訪れたこともあります。

城跡の東には、信長が休憩するときに座ったという大きな石があります。

1584年4月9日、長可は、羽柴秀吉に味方して小牧・長久手で戦った際、流れ弾が眉間に当たり27才で亡くなりました。

1565年に金山城で生まれた乱丸も城主となりました。15歳には安土城にいき、信長の近くでいろいろなことを学びました。大人になって立派な武将となる前に、信長とともに本能寺の変で亡くなりました。



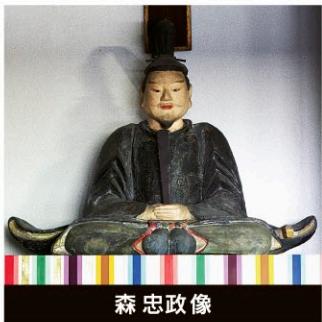
森 可成の墓

## 森 忠政

森家で最後に金山城主となったのが忠政です。豊臣秀吉の家臣として活躍しました。現在の美濃金山城跡は、忠政が城主だった時のように残っています。

建物の柱の土台に利用した石がたくさん見つかり、城には様々な建物があったことがわかりました。その建物の屋根に使われたと思われる瓦も見つかり、城で使った茶碗なども発掘されました。また、今日においても石垣をみることができます。

この城は1601年に壊されますが、その時のままで残っているので、城の壊され方がわかります。



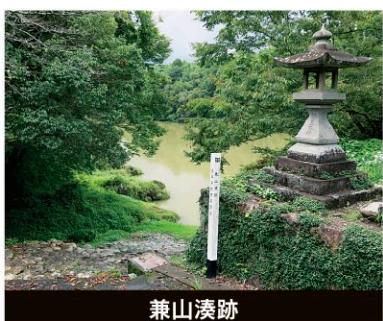
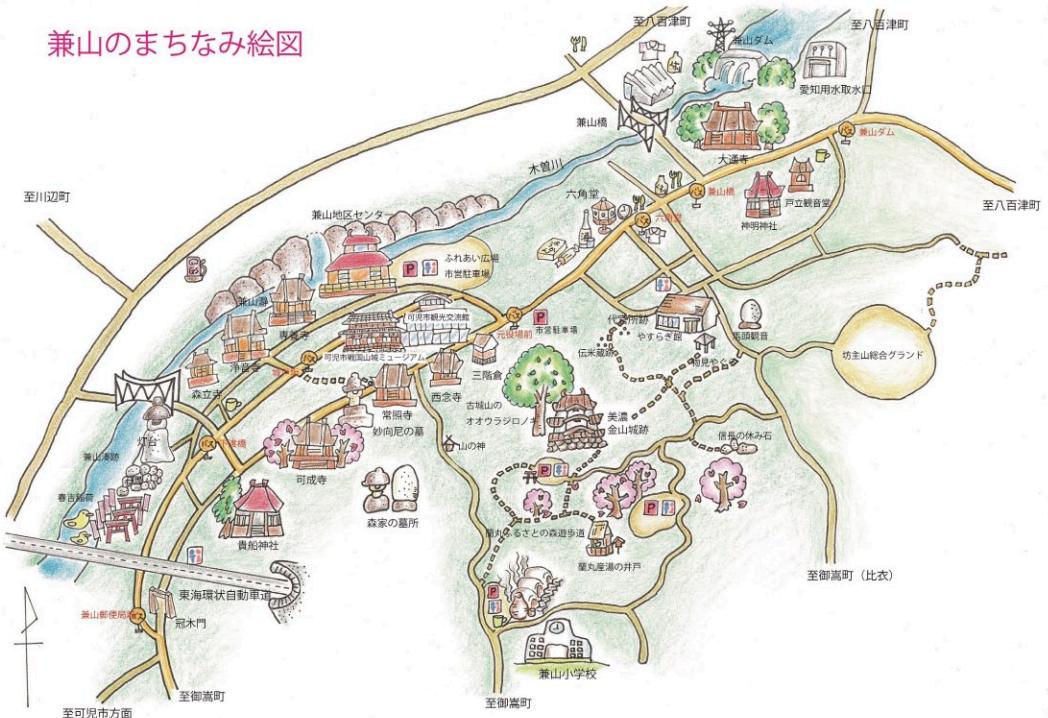
森忠政像

## 兼山のまち

兼山は、もともと「金山」と書きましたが、近くに同じ名前の場所があったので、今から350年ほど前に「兼山」と書き方を変えました。町の北側を木曽川が流れ、南には中山道が通っていて、たくさんの人や物が行き交う場所でした。木曽川には古くから湊があり、近くの山から伐り出される木材などが出され、海からくる船で塩や魚が運ばれました。

湊にはたくさんの船があり、町の通りにはお店が並んでいました。現在でも、城下町や商人町として賑わっていた往古の町の姿を見ることができます。

### 兼山のまちなみ絵図



兼山湊跡



往古の兼山のようす

年(和暦)	できごと
1537(天文 6)	斎藤大納言妙春(正義)が烏峰城をつくる。
1565(永禄 8)	森可成が金山城とする。
1570(元亀元)	宇佐山城の戦いで可成が亡くなる。長可が城主となる。
1582(天正10)	長可が川中島に移り、弟の乱丸が城主となるが、6月本能寺の変で乱丸が死去し、長可が再び城主となる。
1584(天正12)	小牧・長久手の戦いで長可死去。弟の忠政が城主となる。
1600(慶長 5)	忠政が川中島(長野)へ移り、金山城は犬山城主の石川光吉が城主となる。
1601(慶長 6)頃	城が破却される。